

盛岡の街と中津川が好きな人
みんな集まれ!!



またいつか会おうね!
ありがとう 中津川

・・・「さけの赤ちゃん放流会」の30年・・・

皆で思いを
語り合おう

■ スライドで振り返る 放流会の30年

本町振興会の川と街への思い

■ サケの命の輝きに触れる

いきもの写真家、平井佑之介さんの
写真展とトーク

岩手のサケを
10年にわたり撮影!
サケの命は感動的

みんなで一緒に
歌いましょう

■ 中津川と鮭、 この街への想いを歌い上げる

シンガーソングライター田口友善さんの
ミニライブ「いってらっしゃいさけの赤ちゃん」

● ご来場記念品もれなく

南部鉄器製オリジナル「鮭の里親メダル」

私たち本町振興会は、30年余にわたり毎年春に「さけの赤ちゃん放流会」を続け、鮭帰る中津川を大切にする市民活動の一翼を担ってきました。

盛岡市の人々は、毎年、中津川にサケが帰ってくるのを楽しみにしてきました。しかし、近年その数が激減し、この2年は全くその姿を見せていません。専門家によると、中津川を下ったサケの稚魚が、北上川から三陸の海に出たところで、海水温の異常な上昇により北太平洋へ旅立つことができないというのです。

私たちは、自然の回帰がかなわない現状では、中津川への「さけの赤ちゃん放流会」をお休みすることにしました。

長い間放流会を続けてこられたことにありがとうございますの気持ちを伝え、またいつかこの川へサケが帰ってくることを待ち望みたいと思います。また、その日まで中津川の清流を守り続けることを誓い合ひましょう。

これまで「放流会」に参加くださった方、盛岡の街と中津川が好きな人、みんな集まれ。

▶ 2025年4月20日(日)

午後2時～

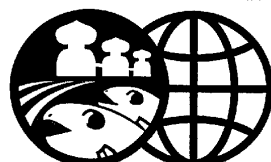
▶ 岩手県公会堂2階26号室

主催/盛岡本町振興会 協力/本町町内会・本町内丸子供会

後援/盛岡市・盛岡市商店街連合会・一般社団法人深沢紅子野の花美術館・

一般社団法人SAVE IWATE・岩手日報社・IBC岩手放送

鮭帰る中津川
情緒あふれる上の橋



城下盛岡ほんちよう



▲1994年（平成6年）第1回さけの赤ちゃん放流会



▲中津川に帰ってきたサケを見る人々。2018年、与の字橋付近。



▲産卵床に集まるサケの雌雄（2018年）



◀2022年10月
浅岸橋付近で観察されたサケの産卵行動。この年を最後に、2023年以降、中津川ではサケが観察できていない。

プロフィール



田口友善

二戸市出身、盛岡市在住のシンガーソングライター。岩手の郷土愛を歌うオリジナル曲のほか、懐かしの洋楽岩手方言訛り歌も。また、自称桜ソムリエとして等、幅広く活動する。「いってらっしゃい・・・」作曲当時は現役の盛岡市職員で「歌う公務員」と呼ばれた。



平井佑之介

1988年東京生まれ。いきもの写真家。大学で動物行動学を学び、写真を通して「今を生きる」いきものたちの姿を伝え、人と動物そして自然が共に暮らせるきっかけを作りたいと写真家を志す。東日本大震災で被災した陸前高田市の気仙川などでサケを10年間撮り続け、2024年富士フィルムフォトサロン東京で写真展。同年9月写真絵本「ふるさとをめぐすサケの旅」出版。



みんなで歌いましょう 「いってらっしゃいさけの赤ちゃん」

作詞作曲 田口 友善

いってらっしゃい さけの赤ちゃん
この小さな 中津川から
いってらっしゃい さけの赤ちゃん
あの大きな 太平洋へ
5千キロもの 長い旅へ
4年後には 戻っておいで
だから僕らは いつまでも
この街を愛しているよ
この地球を愛しているよ

いってらっしゃい さけの赤ちゃん
この小さな 中津川から
いってらっしゃい さけの赤ちゃん
あの大きな 太平洋へ
5千キロもの 長い旅へ
4年後には 戻っておいで
だから僕らは いつまでも
この川をきれいにするよ
だから僕らは いつまでも
あの海をきれいにするよ

いって らっしゃい さけの あかちゃん このち いーさな なかつ
がわから いって らっしゃい さけの あかちゃん あのー おおきな たいへ
いようへ ご せん キロもの - な-がいた びへ-
よ ねんごに-は- も-じおって おい-で-
だから ぼくらは いつま でも このか わを きれい
にするよ だから ぼくらは いつま でも あのうみを きれい
に- する-よ -
いって

お問合せ ●盛岡本町振興会 盛岡市本町通1丁目16-1
TEL.019-623-8281 FAX019-652-1916
E-mail:matsumoto@cameranokikuya.jp